

東洋医学概論 [五蔵六腑]

作成：りんご鍼灸院

木	君火	相火	土	金	水
肝	心	心包	脾	肺	腎
魂を蔵し、判断力や計画性などの精神活動を支配する	神を蔵し、五臓六腑を統括する	君主たる心が最も信頼する器官	営を蔵し、後天の本となる	肺は気を主り、心を扶けて、臟腑や器官の働きを調整する	腎は精を蔵し、生命力の根源である原気をもたらず
肝は將軍の官謀慮これより出ず	心は君主の官神明これより出ず	中は臣使の官喜楽これより出ず	脾胃は倉廩の官五味これより出ず	肺は相傳の官治節これより出ず	作強の官伎巧これより出ず
血を蔵す筋を主る	血脈を主る	心包は心包絡、あるいは中ともいわれる	筋肉を司る津液を作り出す	皮毛を主る	津液を主り、全身の水分代謝を調整する
肝の状態は爪に反映する	心の状態は顔面や色つやに反映する	君主たる心が最も信頼する器官。心を包んで保護し、心に代わって邪を受ける	脾の状態は唇に反映する	***	骨を主り、その状態は髪に反映する
目に開竅する	舌に開竅する		口に開竅する	鼻に開竅する	耳と二陰(前陰=小便口、後陰=大便口)に開竅する
液は涙	液は汗	***	液は涎(唾液)	液は涕(鼻水)	液は唾(よだ)
胆	小腸	三焦	胃	大腸	膀胱
決断や勇気を主る。全身の重心。 精汁(胆汁)を蔵する	長く伸びた腹わたを意味する。上は幽門に連なり胃と通じ、下は大腸と連なる、小腸と大腸の連なるところを闌門という。糟粕を水分は前の膀胱へ、固形分は後ろの大腸へ送られる	特定の器官を指すのではなく、飲食物を消化吸収し、これから得た気血津液を全身に配布し、水分代謝を円滑に行わせる一連の機能を示す。上焦は体温調節作用、中焦は気血津液の調整作用、下焦は輸瀉の働きと分けることができる	飲食物が入る丸い袋状の器官を意味し、「」と同義。上は食道と、下は小腸とに連なる。胃の上口は噴門、下は幽門である。噴門部を上、幽門部を下、胃の中央部を中と呼び、併せて胃とも呼ぶ。	上は闌門に連なり、下は直腸に連なる。直腸の下端は肛門。糟粕を転送しながら変化させ糞便として肛門から排泄する	小便袋を意味する。下腹部の前方に位置する。水分は肺、脾、腎、三焦の働きにより全身を巡った後、気化作用によって膀胱に集め貯えられ尿となって排泄される。
中正の官決断これより出ず	受盛の官化物これより出ず	決瀉の官。水道これより出づ	*脾胃となり胃の部分と同様	伝導の官変化これより出ず	州都の官津液ここに蔵し、気、化すときは即ち能く出づ

*注：影つきの色はそれぞれ「陰経」

*注：色は木火土金水の対応色。即ち青・赤・黄・白・黒

この資料の再配布は禁止しています